

重点研究「みらい」 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
一ノ渡 忠之	国際文化交流学部 准教授		500 千円
研究課題名	日ロ地域間経済関係の現状と可能性～石川県の経済関係の多様化に向けて～		
研究期間	2019 年 7 月 1 日～2020 年 6 月 30 日		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入〕</p> <p>日本は北方領土問題の解決と平和条約締結に向け、従来の考えに囚われない「新しいアプローチ」に基づきロシアとの経済関係の協力・強化を図っている。日ロの「8 項目の協力プラン」は政官民が重層的に連携し、多面的な分野でのロシアとの協力関係の構築を具体化させるものであり、医療や農業、中小企業、エネルギー分野などでの日ロ経済協力が進んでいる。とくに、ロシアが巨額の予算を投じ進めているロシア極東地域の経済発展プログラムに関連し多くの日系企業が同地域へ進出し、経済的連携を図ってきた。なかでも、極東から地理的・空間的に近い北陸地方では、富山県や福井県の企業がロシアとの関係を深め、両地域間の物流航路の確立、文化・人材交流を活発化させているとみられる。</p> <p>本研究は、「北陸地方とロシア極東との経済関係の行方は？」との問いに基づき、ケース・スタディとして富山県と石川県をとり挙げ、A: 日ロの地域経済関係のメカニズムと特質を明らかにするとともに、B: 石川県のロシア極東との経済関係の現状と可能性を分析していく。北東アジアにおける地方自治体の地域経済協力の方向性を見通す上で重要な視点を提供することとなり、ロシアのみならず多角的な経済関係の構築と強化を進める地方自治体の対外経済政策の策定に資するものとなる。</p> <p>研究方法: 本研究の基盤として、第 1 に国立図書館や研究機関でのライブラリーワークを中心として進めていく。第 2 に、現地調査のヒヤリングを中心として、現状と可能性を分析する。また、ロシアの研究機関および研究者の協力を仰ぐことを予定している。</p>		
研究の成果	<p>①2020 年初の新型コロナの感染拡大に伴い研究が中断した。</p> <p>・19 年度中の成果</p> <p>富山県庁および日本貿易振興機構 (JETRO) 富山事務所訪問</p> <p>・19 年 9 月のロシア極東のウラジオストク訪問と企業面談</p> <p>①在ウラジオストク総領事館</p> <p>②在ウラジオストク三菱 UFJ 銀行</p> <p>③在ウラジオストク日本センター</p> <p>④在ウラジオストク双日ロシア会社</p> <p>②20 年度中の渡航及び現地インタビュー (ハバロフスク及びウラジオストク) の禁止により、本研究の中心となる現地企業の活動調査が令和 3 年 3 月現在不可能となっている。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔学術誌掲載論文, 図書, 学会発表, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ等について記入〕</p> <p>本研究については、経費執行により購入した図書及び各種機関からの最大限の情報収集により、令和 3 年度小松大学紀要 (『国際交流』) への寄稿する予定です。</p> <p>タイトル「コロナ禍のロシア極東と日本との協力の可能性」</p>		
経費の執行状況	区 分	執行額 (円)	備 考
	①海外旅費 (ウラジオストク)	157.45 千円	
	②国内旅費 (富山県)	4.74 千円	
	③図書・備品購入	285.109 千円	